

1 単元名 かん字のがくしゅう「文字の形」

2 単元目標

- 文字の中心や外形に気をつけて書こうとしている。（関心・意欲・態度）
- 文字の中心や外形の意識付けを通し、文字の正しい書き方を考えることができる。（思考・判断）
- 文字の外形を理解し、丁寧に書くことができる。（知識・理解・技能）
- ノートやプリントでも文字の外形に気をつけて書くことができる。（書写の日常化）

3 指導上の立場

（1）単元について

本単元では、文字の外形の違いに気づき、字形を整えて書くことをねらいとしている。そこで、漢字や平仮名、片仮名の形を長方形や円形、三角形などおおよその形に分ける活動を通して、それぞれの特徴や違いに気付かせたい。そして、外形を意識させながらくり返し練習していくうちに字形を整えて書くことができるようにしていきたいと考える。

（2）児童の実態

本学級の児童は、男子16名、女子9名の25名である。1年生の時に、ひらがなや漢字に外形があることは学習している。しかし新しい外形もあるためもう一度確かめることと、外形枠に納めるにはどうしたらいいかということも考えられるようにしていきたい。また2年生の1学期に、片仮名における「文字の形」として「ながしかく」「よこながしかく」「だいたいしかく」の外形を学習してきている。文字を書く際に、外形枠をうすく書いてからその中に文字を書いている児童もいるが、全体としてみると身につけている児童は多くない。姿勢についても十分でない児童もいるので、姿勢などの学習規律も含め、一字一字丁寧に書いていくことを徹底させたい。

（3）研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成—自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習—』に迫るために次のような工夫をしていきたい。

○主体的に学び、日常化の図れる工夫

- ・外形に気をつけて書くことの良さに気づき、日常に生かすことができるように、おおよその形を自分でかたどってから練習する活動を取り入れる。
- ・日常場面での自分の文字を批評する活動を取り入れることで、既習事項を日常に生かすことができるようにする。

○基礎・基本を身につけさせる工夫

- ・文字の外形を理解させるために、外形枠を作り、どの文字がどんな形に近いか考えることができるようにする。外形枠は、違いをはっきりと区別するために色分けをしておく。

○自己の伸びを実感させる評価の工夫

- ・自分が書いた文字が、形よく書けているか確かめることができるように、ひとりひとり外形透明シートを与え、書いた後にチェックできるようにする。
- ・のびを実感することができるように、ためし書きとまとめ書きを比べられる「のびのびシート」に清書をする。
- ・自己の伸びを感じ、また次への意欲につながるように、書画カメラを用いて、お互いの成果を認め合う活動をする。

4 指導計画（全11時間）

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 第1時 | 筆順に気をつけて、丁寧に書く。 |
| 第2・3時 | 画の方向に気をつけて、丁寧に書く。 |
| 第4・5時 | 画の長さ、画と画の間に気をつけて、丁寧に書く。 |
| 第6・7時 | 画のつき方・交わり方に気をつけて、丁寧に書く。 |
| 第8時 | 文字の中心に気をつけて、丁寧に書く。 |
| 第9時 | 文字の形に気をつけて、丁寧に書く。（本時） |
| 第10時 | へんになったときの文字の形の違いに気づき、丁寧に書く。 |
| 第11時 | 漢字の成り立ちを知り、文字に対する興味・関心を高める。 |

5 本時案（第9時）

目標	文字の外形について理解し，外形を意識しながら丁寧に書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 学習のめあてをもつ。 (1) 試し書きをする。 「今日の夜」 「上と下」 (2) 文字の外形について考え，めあてを持つ。	○筆順を確認するために，空書きをする。 ○姿勢や鉛筆の持ち方を確認してから，試し書きの準備をするよう促す。 ○前時までに習った「とめ」「はね」「はらい」「まがり」「おれ」についても思い出せるよう，声をかける。 ○既習の学習が思い出せるよう，片仮名の外形についての復習をする。 ○外形には，円形，三角形，ひし形もあることに気づくことができるように，あらかじめ外形透明シートを配しておく。 ○文字の外形を想像することができるように，それぞれの文字がどの外形に当てはまるか仲間分けをする「外形クイズ」をする。 正方形・・・日・夜・ホ・と 円形・・・の・ゆ ひし形・・・今・青 三角・・・上・下・ム	○文字に適した外形を考えることができたか。 (思考・判断)
2 練習する。 3 まとめをする。	文字の形に気をつけて，丁寧に書こう。 ○自分の試し書きが外形に合っているかどうか外形透明シートで調べ，めあてをはっきりと持つことができるようにする。 ○外形にあてはめて書くには，点画の長さや方向とも密接に関わるので，文字を書く際の目安となるよう助言する。 ○自分の書いた字が整っているか確かめるのに，外形透明シートを使うことで，自分で直しながら練習を進めていくことができるようにする。 ○姿勢や鉛筆の持ち方の正しい児童を称揚し，児童自ら姿勢や持ち方に気をつけることができるようにする。 ○まとめ書きをする前に，もう一度，外形について振り返ることで，要点を意識して書くことができるようにする。 ○試し書きとまとめ書きの外形を比較させることで，自己評価ができるようにする。 ○書画カメラで上達した児童の文字をみんなで見え，良さを認め合うことで，次への意欲につながるようにする。 ○日常の中で生かせるよう，自分の連絡帳の字を見て外形を意識できていない字を直させる。	○文字の外形を理解して，丁寧に書くことができたか。 (知識・理解・技能)

共通のめあて

指導のポイントなど